

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーン

日産はビジネスパートナーとの信頼を基本に、お互いの持続的な成長を目指しています。そのために、常に対等な立場でサプライヤーや販売会社の意見に耳を傾け、切磋琢磨し合いながらベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。日産が事業展開する地域の拡大とともにバリューチェーンもグローバルに広がる中、一貫性のあるCSR活動を推進するために、日産のCSRに対する考え方や方針をビジネスパートナーと共有し、CSRマネジメントの向上を目指しています。



取り組みの柱

関連指標

「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」 配布サプライヤー数	7,600社
「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」 配布サプライヤー数	3,000社 (部品・資材)
環境データ調査対象 サプライヤー	グローバル全購入額の70%
コンプライアンス違反に対する 改善勧告実施件数(2012年度)	11件
「日産グリーンショップ」 認定件数	174社/約2,800店



▶▶ GRI G3 Indicators
▶▶ EC6/EN26/PR2



▶▶ page_38

「日産グリーンショップ」の詳細を掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

バリューチェーンへの取り組み

取引先の決定にあたり、日産は透明性のある公平・公正な業務プロセスを徹底しています。国籍、企業規模、取引実績の有無にかかわらず、広く参入機会を提供し、選定に際しては関係部門が一堂に会してサプライヤーからの提案を横断的に検討します。そして、選定結果は参加したすべてのサプライヤーに必ず説明しています。

実際の取引においても、「日産グローバル行動規範」¹⁾(第4項「公平・公正な関係」)を順守し、公平・公正な業務の徹底を高い水準で維持するよう努めています。日常の緊密なコミュニケーションに加え、サプライヤー各社へのアンケートや意見交換を定期的に行い、社外の視点からのチェックも行っています。

また、自動車産業が目指す調達上の原則や、下請法²⁾および独占禁止法³⁾上の留意点などをまとめた「自動車産業適正取引ガイドライン」について社内への周知徹底を図るとともに、サプライヤーに対しても説明会を実施し、サプライチェーン全体で取引の適正化を推進しています。

2012年度は、前年度から継続しているサプライチェーンでの災害対策活動に加え、世界的に関心が高まっている環境問題やコンプライアンス順守に対応した新たな取り組みを開始しました。

2012年度の実績

- 前年から継続しているサプライチェーンでの災害対策活動について
 - ・サプライチェーン見える化データベース構築(国内)
 - ・災害リスク地域を特定し、地域内のサプライヤーの供給体制を確認(主要海外拠点)
- 中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム2016(NGP2016)」に基づくサプライヤーとの共同活動の実施
- 紛争鉱物に関する予備調査の実施
- 販売会社において、情報セキュリティ教育、「グローバル・ソーシャルメディア・ポリシー」違反案件事例の共有、賄賂防止についての規程の整備・再周知を実施

今後の取り組み

- 災害リスクへの対応をさらに強化すべく、以下を行う
 - ・サプライチェーン見える化データベース構築(主要海外拠点)
 - ・初動対応業務フローの作成(主要海外拠点)
 - ・ハイリスク地域のサプライヤーの現場診断(国内)
 - ・被災予測シミュレーションのシステム導入(国内)
- CO₂排出量削減などのサプライチェーンでの環境活動を推進するため、サプライヤー環境データ調査の継続
- 紛争鉱物本調査の実施およびサステナビリティレポート等での情報開示
- 販売会社を対象にした情報セキュリティ教育の継続

▶▶ page_92

¹⁾ 「日産グローバル行動規範」の詳細を掲載しています

²⁾ 下請法: 下請代金支払遅延等防止法

³⁾ 独占禁止法: 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サプライヤーとともに

日産にとって、すべてのサプライヤーが大切なビジネスパートナーです。「信頼(公平に、プロ意識を持って)」「相手への敬意(約束、義務、責任を果たし)」「透明性(オープンに、率直に、明快に)」という3つの価値を共有しながら取り組んでいます。

「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」

サプライヤーとの取引にあたっては、大切にしている価値やプロセスを「The Renault-Nissan Purchasing Way」¹⁾という小冊子にまとめ、2006年からルノー・日産のサプライヤーと共有しています。さらに、グローバルに広がるサプライヤーとともにCSRを実践していくため、2010年5月に「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」²⁾を発行、グローバルでサプライヤー全社に配布しました。ガイドラインは、サプライヤー各社の企業活動をCSRの視点で見直し、CSRへの取り組みをさらに浸透させていくことを目的としており、日産のCSR方針および調達に関する方針のほか、「安全・品質」「人権・労働」「環境」「コンプライアンス」「情報開示」の主に5つの項目について説明しています。

発行以降、CSRガイドラインをすべてのサプライヤーに提示し、ガイドラインの徹底を図っています。2012年度は、自動車業界において関連法令に違反するようなコンプライアンス事案が多発しましたが、日産はこうした事案に対して、ガイドラインに則った厳正な対処を実施し、当該サプライヤーにおける法令規範の確実な順守とCSRに対する社内体制の強化について確認を行っています。

サプライヤーと共同で取り組む「モノづくり活動」を強化

日産では、より競争力のある商品を常に生み出すため、2008年からサプライヤーと日産の連携による「モノづくり活動」を進めてきました。この活動を発展させるため、2009年からはサプライヤーとの信頼と協力を重視した共同改善活動「Thanks活動」を推進しています。サプライヤーとともに厳しい市場でコストリーダーとなることを目指し、部品当たりの生産量増加、現地化の徹底、物流の改善などを実施しながら、品質向上、コスト低減、製造の合理化などに取り組んでいます。

2012年、中期経営計画「日産パワー88」の2年目を迎え、グローバルでの生産台数の増加が本格化し、サプライヤーとの供給体制の確保が重要な課題となっています。日産ではサプライヤーと協働しながら「モノづくり活動」の強化を推進し、安定した供給体制の構築を目指しています。

災害リスクへの対応

日本およびタイで策定したサプライチェーンでの事業継続計画(BCP)に加え、対象範囲を拡大し、タイ以外の海外拠点(北米、欧州、中国、インド)についても、サプライチェーンにおけるBCPの検討を開始しました。また、サプライチェーンの見える化活動、すなわち、サプライチェーンの状況を把握し、あらかじめ想定できるリスクへの対策を行うことにより、速やかな初動対応につなげる活動も行っています。

▶▶ website

¹⁾ 「The Renault-Nissan Purchasing Way」および「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」は、ウェブサイトからダウンロードできます

²⁾ 「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」の作成に際しては、日本自動車工業会および日本自動車部品工業会のCSRに関するガイドラインを参考としています

▶▶ website

サプライヤーとの品質の取り組みに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

事業発展に貢献したサプライヤーをグローバルに表彰

日産は、毎年世界の各拠点で事業の発展に貢献したサプライヤーを表彰するとともに、グローバルレベルで業績向上に寄与したサプライヤーに対して、日産グローバルサプライヤーアワードとして「グローバル品質賞」と「グローバルイノベーション賞」を贈呈しています。この表彰制度は、品質、コスト低減、技術開発といった経済活動、環境配慮、社会性の3つの側面でバランスのとれた経営を行うという日産の考え方が、グローバルレベルでサプライチェーン全体に浸透することを目的としています。

グローバル品質賞は、購買部門や品質部門などが、グローバルに統一された品質評価基準に基づいて選考します。

グローバルイノベーション賞は、商品技術とプロセスマネジメントの2分野において、生産・開発・品質など関連部門の推薦を受けたサプライヤーを選考します。

2012年度は、3社がグローバル品質賞を受賞し、グローバルイノベーション賞は商品技術分野で7社が受賞しました。

「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」を改定

日産は、サプライヤーにおける環境活動の基準を、「ニッサン・グリーン調達ガイドライン」*にまとめ、2001年に発行し、活動への協力をお願いしました。

以降、2回の改定を行い、下記項目を追加しました。

- 1 2008年：サプライチェーン全体での環境負荷物質の低減と管理
- 2 2010年：「ルノー・日産サプライヤーCSRガイドライン」に基づくサプライチェーンでの環境活動の推進

2012年には、「ニッサン・グリーンプログラム2016」に基づき、下記の項目を追加しています。

- 1 サプライチェーンにおけるCO₂や水の排出量等の環境データ調査の開始
- 2 各国の環境法規に対応し環境負荷物質の管理を強化するため、適用地域や対象物質の拡大
- 3 サプライヤーにおける環境負荷物質管理の体制と順守すべき項目を、発注先選定段階でのサプライヤーとの確認の開始

紛争鉱物への対応方針

2012年8月、コンゴ民主共和国および周辺国の紛争地域で採掘された4鉱物の中で、武装勢力の資金源となっている可能性のある鉱物の使用有無について報告を課す法案の細則が米国で制定されました。同法の主旨に賛同する日産は、CSRの観点からサプライチェーンにおける紛争鉱物の使用を把握し、紛争鉱物不使用に向けた取り組みを行う方針を決定しました。

2012年10～12月にサプライヤーへの予備調査を実施。2013年度からは本調査を実施します。結果についてはサステナビリティレポート等で開示する予定です。

▶▶ website

*「ニッサン・グリーン調達ガイドライン(改定版)」はウェブサイトからダウンロードできます

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	COOメッセージ	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者意見
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

販売会社とともに

日産では、販売会社とコンプライアンスの意識を共有し、より強固な内部統制を構築できるように、さまざまな取り組みを推進しています。販売会社とのコミュニケーションを強化しながら、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

販売会社と共同で取り組むCSRマネジメント

日産では、販売会社とともに一貫性のあるCSRマネジメントを推進するため、日本国内の日産販売会社向けにコンプライアンス強化を目的とした活動を継続的に実施しています。具体的にはコンプライアンスに関する管理レベルの把握と改善を目的とした自己点検プログラムを2012年度についても各販売会社で実施し、販売会社内での気づき、自発的改善につなげました。2012年度は各種取り組みについて周知徹底を行い、改善活動を行うなど、各販売会社と一体となってコンプライアンス強化の取り組みを推進しています。日産は販売会社とともにコンプライアンスへの意識を共有し、より強固な内部統制の構築に努め、CSRマネジメントのさらなる向上を目指しています。

販売会社に対するコンプライアンス教育

日産では販売会社に対するコンプライアンス教育として下記を実施しています。

情報セキュリティ教育

ウイルス感染やメール誤送信防止、PC紛失・盗難による情報流出防止など、日常業務の中で、重大インシデントに結びつくようなリスクを回避するために、日産e-ラーニングで実施した内容に準じた教材を各販売会社に提供し、情報セキュリティ教育を実施しています。

「グローバル・ソーシャルメディア・ポリシー」の周知・徹底

「グローバル・ソーシャルメディア・ポリシー」に反した、SNSやブログへの不適切な書き込み事例を販売会社に展開しています。不適切な書き込みにより、当該販売会社のみならず、日産グループ全体にどのような不利益が発生する可能性があるのかも併せて伝え、啓発と再発防止を図っています。

ハラスメント教育

ハラスメントに対する社会的関心の高まりや、販売会社での発生事例を勘案し、特にパワーハラスメントを中心とした教材を提供。「パワーハラスメントにあたる行動・言動事例」「発生した際の影響」「販売会社での発生事例」「発生時の対応」等の内容を含み、これを活用し販売会社で教育を実施しています。

賄賂防止

日産では従業員における賄賂防止をグローバルに徹底し、販売会社においても、現在ある規程の見直しと再周知を依頼しています。同時に「日産グローバル行動規範」の「接待・贈答等細則」をベースにした資料も配布しています。